

令和7年度 第2回郡上市総合計画審議会 要録

日 時

令和7年9月2日（火）13時30分～15時50分

会 場

郡上市役所 八幡防災センター研修室

出席者

【委 員】長岡 文男、今井 良幸、尾藤 望、曾我 厚夫、下野 真由美、武藤 一太、小酒井 章義、直井 将人、奥村 文乃、鈴木 富士夫、島崎 禮子、荻田 ひろ美、木島 清、小林 与志夫、北山 徳宏、岡野 早登美、山下 優子、進藤 彩子、鷺見 さくら、川端 孝哉、山畑 浩由季、山根 さき、足立 駿介、小椋 重徳 計24名
※欠席委員 1名（嶋田 佑樹）

【事務局】河合市長公室長、鷺見企画課長、林政策推進課長、曾我企画課長補佐、木嶋政策推進課長補佐、猿渡改革推進係長、蓑島企画調整係長

会議内容

進行：企画課長

1. 開会 13:30

2. 会長あいさつ

本日、多くの方にお集まりいただいたことを非常にありがたく感じている。こういった会議となると、ご都合により参加できない方がいらっしゃると思うが、今後の十年を決める計画に積極的に参加されたいというご意思の表れと思っている。

本日の資料にある将来推計値を見たときに、2050年に自分はどうなっているのか、私の場合は2050年には70歳くらいになるが、人生100年と考えるとまだまだ生きられるなという思いを持ったが、これは世代によって考え方が異なると思う。私としては、若い世代の方にこの審議会に参加していただきたいと思っていたが、その理由としては、将来推計値を一番自分たちが生きている時代として捉えやすいだろうと思うからである。一方で、委員の中におられる50代60代の方たちにとっての捉え方もそれぞれあると思う。これまでこういった推計を見ると、私は将来の自分はどうかという不安を感じていたし、皆さんもそうではないかと思う。ここ10年の自分の歩みを考えてみると、コロナもあり全く予測がつかなかったのが、今後10年もどうなるかはわからないが、悲観してばかりではどうにもならないという思いと同時に、将来推計値は、ほぼその通り進むだろうとも感じている。そこに抗うよりも、その中で自分たちに何ができるかということが今の時代には一番必要なことだと思う。高度成長期のような成長が続く時代は終わり、そんな時代だからこそ、ここでお集まりの各世代の方々が、「自分ごと」として、自分目線での意見を話していただきたい。その意見の一つ一つが、今後10年の郡上市を良い方向に進めるのではないかと考えている。

また次回以降、部会に分かれ各自の知見、思い、考えを積極的に出し合ってもらい、皆さんには、郡上市が少しでも良いものになるよう関わっていただきたいと思う。私は皆さんの意見をできるだけ整理しながら進行役を務めて参りたいと思っているのでよろしくお願いする。

進行：尾藤会長

3. 協議事項

(1) 第3次郡上市総合計画の基本構想の策定について

※資料1～資料3により説明（蓑島係長）

■委員からの質疑・意見

(会長)

資料1が今回の計画の考え方、資料2が最終的に市民に公開する計画部分となる。資料1が総合計画基本構想の考え方の土台になるので、そもそもの部分への疑問やもっと参考とすべきものがあるのではないかとといった意見でよいので質問や意見を伺いたい。また、基本構想が総合計画のベースとなるため、自身がこうして欲しいと考えるものが欠けていないかという視点でも考えてもらおうとよい。

最終的にはこの基本構想の方向性で策定を進めてよいか採決をとらせていただく。

(委員)

資料の中で、郡上未来会議や郡上未来応援団などの取組みを通じて若者の声を聞いているとのことであったが、その他の団体、例えばJC（青年会議所）においても同様の取組みを行っている。これらの団体の意見等については、把握されているのか。

(市)

直接意見を聴取しているわけではないが、各種団体の意見についても、代表である審議委員の方々にこの場で共有いただければ、それらを取りまとめ必要なものについては構想に取り入れていきたいと考えている。また、基本構想の原案を職員が作成する過程でも、各種団体の意見を取り入れて反映していくこととしている。

(委員)

基本目標「産業・雇用」の部分を見ると、郡上に住んでおり、郡上で働いていることが前提として原案がつくられていると思われる。高速道路網が開通し、本巣とか大垣方面への通勤も可能な時代になってきているので、郡上在住でなおかつ市外で働く方が高速道路を利用する際に補助を出すことを計画に盛り込むことはいかがか。

(市)

今開催している全体会の他に、部会の開催を予定している。基本構想においては全体に関わる構想部分を設定するもので、基本計画の細かい部分については、部会の中で議論していきたい。その際に、郡上市で働く方、郡上市に住む方という観点でも議論していただけるとありがたい。

(委員)

現在の公民館の状況を考えたとき、人と人とのつながりの希薄化は私たちが注視している部分でもある。公民館を取り巻く団体、子供会やPTAそれからシニアクラブが解体されていく中で、公民館と地域・学校をつなぐパイプが閉ざされている状態である。特に、小学校とのつながりの中で存続してきた部分もあり、これから公民館活動をどうしていくかが課題となっている。また、人と人とのつながりという点ではふれあい祭りのこともある。今年大和では、振興事務所から廃止もしくは縮小を提案されたが、地域の人たちが主体的に関わりふれあい祭りを作りたいという思いもあり、各種団体からスタッフを集めて開催することとなった。そういったことから、人と人とのつながりをさらに深めていくような基本構想であってほしいと思っているが、資料2の「まちづくり・地域振興」の中身が弱いのではないかと感じた。地域の人たちがどのようにこれからその地域の主体になっていくのかを膨らませていただけるとありがたい。

(市)

どのように反映できるか検討したい。また、具体的な議論については部会の中で基本計画の中でどのように盛り込むか検討していきたい。

(委員)

私は大和の牧公民館で高校生を受け入れてサマースクールというプログラムを開催した際に、地域公民館の利用にあたり、地域の方々に市外の学生の受け入れについて前向きに話し合っていたき、プログラムも素晴らしいものになった。

1点目に、計画の中では、地域の子供、地域の人達の循環ということに重きを置かれてると思うが、人口が縮小していく中では市内での人の循環には限りがあるため、市外からの人を受け入れながらその土地を愛してくれる人を増やすと、より大きな循環が生まれるのではないかなと思うので検討いただきたい。

2点目に、郡上市の将来像の「『ちょうどいい』まち」という文言に違和感があった。「ちょうどいい」は人それぞれ違う感覚であり、がんばろうという気持ちに対してここまで制限をかけるような消極的な印象を受けることもある。一人一人の価値観が尊重されることに適した言葉を考えていただきたい。

(市)

郡上に関わっていただける方を増やすための取り組みは、基本計画の方で反映できるよう検討したい。「ちょうどいい」に代わる良い言葉については検討する。

(委員)

私も「ちょうどいいまち」という表現について、機能のコンパクト化の話は理解できるが、市民1人1人の個人のライフスタイルや価値観について「ちょうどいい」と言われると違和感がある。もう1点は、分野別の基本目標の、「子育て、健康、福祉」のところで、すでに不調抱えている人や高齢者の方が取り残されるような印象を受けるのではないかと感じた。

(市)

言い回しについては検討させていただく。現在の総合計画の中でも福祉の分野の中で高齢者医療や障害福祉について取り上げているが、基本構想の部分でも、拾い上げられるようにご意見として受け止めたい。

(委員)

資料も構想も総じて世代のバランスが悪いような印象を受ける。どちらかというと、若い方に寄ったような印象を受けた。「郡上のこれからをみんなで考えます。」ということで、高齢者であっても未来も一緒に作っていけるような構想であるべきではないかと思ったので見直していただきたい。

(市)

考え方としては、働く方の厚みがなくなると高齢者にも影響があり、年少人口がいなくなるとどうしても立ち行かなくなるといった部分もある。特化しているわけではないが、この世代を支えることで全体を支えることにつながるのではないかなという思いがあった。ただ、意見をいただいたので、どのような表現が適切かは考えていきたい。

(委員)

介護など若い方の助けが必要となる場合もたしかに多いが、元気なお年寄りもいらっしゃる。様々な背景を持つ方々が生きがいを持てるような基本構想を作っていただきたい。

(委員)

時代に合わせて人口3万人という目標を将来推計に合わせて作られたのは意味のある事と考える。その上で、2点ほど述べさせていただく。

1点目は、分野別の基本目標の中で「磨き上げた魅力を市民や市民以外の人に発信し続けます。」の「市民以外」という表現があるが、郡上にルーツのある人や郡上踊りに常に来てくれる人などに対するアプローチを重視してもいいのではないかな。個別の施策のところでも出てくる

話かもしれないが、移住につながる部分もあるので、もともと市民ではない人について考えてもよいのではないかな。

2点目は、行政運営の基本方針について、②のところで「社会情勢の変化に対応した行政運営」とあるが、時代の変化の中で、官民連携や広域連携が求められていく。単独でやっていくことが難しい時代の中で自立し続けていくには、いろんなところと連携しながら一緒にやっていく必要がある。市民との連携、広域的な連携、民間企業者との連携あるいは民間に任せるといった部分も改めて検討しないといけないのではないかな。特に広域連携は地方創生2.0や国の地方制度調査会で言われているので検討していただくとよい。

(市)

1点目については、検討を進めたい。2点目についても、他自治体との連携がなかなか難しいというところもあるが、総合計画を実現するために、それらについてもうまく表現していきたい。

(委員)

意見となるが、資料2の「分野別の基本目標」の3番目のところで、「他人ごとではなく自分ごとととらえて」という部分がある。今まで行政に任せきりになっていたところを自分たちで考えるということで非常に良い言葉であると思うが、この言葉がおそらくここ1か所だけの登場となっている。何度も言葉にすると少し強制力のあるように伝わるかもしれないが、個人的には「自分ごと」という言葉がもっと出てきてもよいのではないかなと思う。

また、資料1に学生アンケートの導入で、「ふるさとへの愛着は学年が上がるにつれて徐々に減少していきませんが…」となっている。この導入の愛着が減るという認識について、愛着のレベルが下がったわけではなく、様々なことに興味が出てきた結果、数値が下がったという側面もあると思うため、少し言葉を改めていただけるとありがたい。

質問となるが、関係人口という部分で、自分たち高鷲の若手でマルシェのイベントをしており、ボランティアスタッフを集めるにあたり大学生レベルの方々を必要としているが、学校がないこともあり非常に苦労している。今後、大学生の方々が郡上に来るという未来があって欲しいと考えている。先ほど、基本構想の中にそういった文言がないとそもそも検討する余地がないという話があったと思うが、基本構想に「外から人を呼ぶ」という意味合いを含める余地があるのか伺いたい。

(市)

新たに言葉を付け加えずとも、十分含まれているものであると考える。

(会長)

情報提供となるが、今八幡町内では水文化の関係で研究されている学生や大学教授の先生方が調査に来られる。それと一緒に早稲田、法政大の方が来られている。郡上市には豊かな自然があるので、そういったところでつながっていくと、新たな関係が生まれるのではないかなと思う。

(委員)

市外の方が郡上市で働く、郡上市の方が市外に働きに行くという発想とは矛盾しているが、市の仕事を市内の事業者任せるというスタンスがあってもよいのではないかな。行政の歳出を減らそうとすると、少しでも安く契約する必要があるため、市外に依頼する場面も当然あると思うが、多少高額となっても市内事業者の仕事を作ること、10年後、20年後、市内に新たな雇用を生み出し、市の経済を活性化させることにつながるのではないかな。市にこういった話をするのが難しいという返答があるが、総合計画に盛り込むことで、そういった部分も変えられるかな。

(市)

総合計画において市内事業者を利用するよう明記することは難しい。市内の経済循環の話として取り込むことができるかもしれないが、市内の事業者同士の問題にも関わるのでそのまま取り入れるのは難しいため、意見として受け止めたい。

(委員)

この総合計画は「心満ちる心おどるちょうどいいまち郡上市」をみんなで作るための計画で、そのために行政がどう住民を支え、どのように施策を考えていくかを示すものと認識しているが、2番目の「わたしたちの基本姿勢」というところの「わたしたち」は、誰を指してるのか。みんなで作っていくというニュアンスが伝わると良いのでないか。

(市)

総合計画は、市が何かをするかというよりも、市民協働という考えに基づいてみんなでやろうというスタンスになりつつある。審議会でも、市の意見の良し悪しを判断するだけではなく、議論をしていただき直すべき部分を指摘していただきたいと考えている。そういった意味で、「わたしたち」という言葉のニュアンスは、市民と行政とが手を取り合うという意味合いもあると考えている。

(委員)

私は週に一回高校生と会議をする場があり、そこでは郡上が好きという言葉がたくさん聞き、それ以外にも小中学生から郡上が好きという言葉をよく聞く。ただ、進学している方や都会で働く方に郡上に帰ってこないのかという話をすると、住む場所がないから好きだけど帰れないという話も多く聞く。また、仕事もやれることが多いので都会に住むが、盆や正月には郡上に帰りたいという人も多い。郡上踊りが賑しいのも、郡上が好きで戻る方が多くいるからではないか。そのような帰りたいと思う気持ちを無碍にするような郡上市ではもったいないと思う。資料2の分野別の基本目標②には「ふるさとを愛する人たちを育むまち」とあるが、この育んだ人たちをきちんと受け入れる体制が総合計画の中に反映されているのかという点が懸念される。分野ごとの詳しい内容の話になるかもしれないが、受け入れ体制というのが重要なポイントではないか。

(市)

基本構想の考え方としては、郡上で育った人をどう受け入れるかというよりは、郡上で育った人たちが戻ってきたいと思えるようにするためにはどうすればよいのかという構想になっている。具体的な受け入れ体制については、基本計画のほうで議論していただくことになる。

(委員)

資料2の分野別の基本目標で文章を一考いただきたい部分がある。③の「産業、雇用」の部分に「郡上ならではの資源を最大限に活用した農林業や商工観光業の振興を図ります」とあるが、この文章で最初に農林業や商工観光業を持ってくるとうと、その他の産業に魅力がないと思われるのではないか。もちろん郡上市では、郡上踊りやウィンタースポーツなど観光に強い部分もあるので、この部分を消す必要はないが、農林業や商工観光業が先頭に来ると懸念される部分が出てくるように思われる。

(市)

表現方法について一考させていただく。

(委員)

皆様のご意見を聞くと、目的、課題に対する手段について、各団体の皆さんが自分の所管に対する思いを話していると思う。建設関係については、道路整備することや河川改修ということが書かれているが、それはあくまでも目的、課題であって、建設業として関わるのは、そ

れらを達成するための手段の部分であるという思いがある。構想の中で手段にあたる部分の言葉が見えてくると良いのではないか。

(市)

建設業として大きな目で基本構想を見ていただきたいということであるかと思うが、ご意見を受けたので、各論に近づきすぎず、また各論につなげるためにぼやけすぎないように意識し、全体を再度見ていきたい。

(委員)

分野別の基本目標の中で「社会基盤もコミュニティも、人口減少に応じたサイズへのシフトを図ります」という文言があり、縮小の過程で地域内での助け合いがより重要になると感じた。基本構想の中でサイズの縮小に関して触れることで、基本計画内の取り組みについても影響が出てしまい、地域内での助け合いなどの取り組みについても縮小に向かってしまうのではないか。

(市)

ご指摘された部分についての懸念もあるが、現在、直面している人口減少について、それらを受け止めてどうしていくかという部分を踏まえ、総合計画を作っていきたいと考えている。

(会長)

いろいろなご意見、ご心配な点様々出ていたと思うので改めて資料の見直しをしていただくとよいのではないか。資料1の作り方等について若者が強調されているような印象が強いと改めて感じた。今回の総合計画そのものがシンプルに作っているがゆえに言葉が重くなり、皆さんの心配につながるのではないかと思う。

■採決の結果

基本構想の方向性について承認

※意見のあった表現等については、事務局にて協議内容を反映させることとする。

進行：企画課長

4. その他

- ・今後の審議会部会の日程について

5. 閉会 15:50

(副会長)

皆様には、長時間にわたりご審議いただき感謝申し上げます。大変活発に意見を交わされ、どのような構想となるか楽しみである。次回、分科会にて今以上に細かい意見も出ると思うが、どうぞよろしくお願い申し上げます。